

25 “きょうだい”Café

～語り合おう、障がい者のきょうだいのこと～

○開催目的

障がい者のきょうだいはどんな思いを抱えて生活しているのか、その思いが公に語られることはほとんどありません。きょうだいであることを隠して暮らしている人もいます。この分科会では、きょうだい自らの不安や思いをさまざまな人と共有する機会を設けるとともに、きょうだい自身の持つポジティブな力で、新しいつながりを作れることを試みます。

○開催日時

2月14日（日）13：30～16：00

○参加者数・出演者・団体

参加者数：41名（参加者35名、出演者4名、スタッフ2名）

出演者：川上さん（大学院生 23歳/弟が自閉症）

内海さん（大学生 23歳/弟が自閉症）

高橋さん（社会人 23歳/弟が自閉症）

鵜澤さん（社会人 25歳/姉がダウン症）



○プログラム内容・成果と課題

1 アイスブレイキング

2 登壇者のお話

- ・各登壇者がきょうだいとの体験や現在の思いについて話をした

3 参加者とのグループトーク

- ・登壇者の話を聞いた感想
- ・分科会への参加動機
- ・自身の体験や思い
などについて自由に話し合った

4 感想のシェア

- ・各グループの代表が、分科会の感想を話し、全体で共有した

<ねらい>：この分科会は、以下の3点を狙いとして開かれました。

- ① きょうだいのことを、さまざまな立場の方に知ってもらうこと
- ② きょうだい同士のつながりを作ること
- ③ (きょうだい以外で)きょうだいに興味のある方も含めてつながること

<成果>：従来のきょうだいの集まりと言えば、参加資格がきょうだいの立場の人に限られ、また話題も重い話が多く、暗い雰囲気になりがちでした。一方、本分科会では、きょうだいだけでなく、親や友人、恋人、仕事で障がい者の家族と関わっている人、興味のある方など、さまざまな立場の人に参加していただきました。その結果、きょうだいの話に閉じてしまうことなく、さまざまな立場の意見や思いにまで開かれた分科会となりました。きょうだいにとっては、自身の思いをさまざまな立場の人に聞いてもらい、他の立場の人の思いや意見を得る場に、きょうだい以外の方にとっては、きょうだいの思いを知り、きょうだいについて共に考える場になったと思います。カフェのような雰囲気にしたのも功を奏し、終始和やかな雰囲気で分科会を終えることができました。

また分科会終了後に、ここでできたつながりを絶やさないために、分科会参加者のfacebookのグループページ【“きょうだい” Café】を作成しました。用途については、現在模索中です。

<課題>：本分科会で新たにできたつながりを、今後どのように具体的な活動につなげていくか。今、上がっている具体的な案としては「きょうだい Café」の第2弾を開くこと、映画を撮ることなどがあります。

○参加者の声

- ・今まできょうだいとして言えなかった思いなど、話すことができ、話を聞いて気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・いろいろな兄弟会に行きましたが、そこでは兄弟の人だけしかいませんでした。今回

は、部外の方、当事者の親の方の意見が聞いてよかったです。

- ご兄弟やご両親の生の声を聴く機会はなかなかないので、とても勉強になりました。
- むすこ（自閉症）と娘がおり、いつも娘のことが気がかりでした。本人に直接きくことができずにいたので、本日はいろいろな話がきけ、大変良かったです。ありがとうございます。
- いろんな家族があって、それぞれ大変、話をきいたり共感できる場は本当に貴重だと思いました。

○ 担当者・記録

《担当》	川上 侑希子（東京大学大学院 教育学研究科）
	高橋 沙織（みたかボランティア・センター）
	新部 聖子（スープの会）
《運営サポート》	田口 まゆ（NPO 法人 Serenity）
《記録》	川上 侑希子（東京大学大学院 教育学研究科）
	後藤 浩二（スープの会）

